



# 絆

## 空気のような、ふれ「愛」で

吉村 良子・文

函館おしま病院  
ホスピス病棟看護師長



よしむら りょうこ  
社会福祉法人函館厚生院函館  
厚生院看護専門学校卒業。  
平成16年函館おしま病院勤務。  
平成22年12月より同病院ホス  
ピス病棟看護師長に就任し、現  
在に至る。

ある喫茶店で、こんな詩を見  
つけました。

「夫婦」

二十代は愛で、  
三十代は努力で  
四十代は我慢で  
五十代は諦めで  
六十代は信頼で  
七十代は感謝で  
八十代は一心同体で  
そしてそしてそれからは  
空気のような  
ふれあい

私たちがホスピスで出会う六  
十代から八十代のご夫婦は、結  
婚して三〇年から六〇年選手で  
す。まさに、信頼と感謝で結ば  
れていると思います。お互いを  
思いやる心は、私たちには見え  
ない糸で結ばれているみたいで

す。夫婦を五〇年以上も走っ  
ていますと、山あり谷ありと  
困難を乗り越えてここまで来  
たのだと思います。二十代の  
「愛」とは違う「愛」があり  
ます。

ある患者さんは、「リハビリ  
りだから」、「寝てばかりい  
るから」と言いながら、奥様  
と手をつないで歩きます。「ふ  
らついて危ないから手をつか  
んでるのさ」と照れながら話  
す奥様、お二人は手を離そう  
とはしません。「家に帰って  
も気になってしょうがないか  
ら」と、ずっと付き添ってこ  
こまで来ました。

やがて眠ることが多くなっ  
てきました。食べられなくな  
ってきました。トイレに行く  
こともできなくなりました。  
一緒に居る辛さを感じている  
ことでしょう。「涙を見せた  
くない」と頑張っつて傍に寄り  
添っている奥様がいます。

私たちが、手を貸すことは  
簡単です。でも、お二人の空  
気の隙間をぬって寄り添うこ  
とが、私たちのケアの一つで  
はないかと思えます。いつで  
も力強い手を差し出せるよう  
に。空気のような、ふれ「愛」で。